

三重大学

22

MIE UNIVERSITY NEWSLETTER '01.4.30



三重大学広報
ネットワーク
運営室

表紙イラストレーションタイトル『水辺の桜』
表紙デザイン

岡田 博明

(三重大学教育学部助教授)

今回の表紙イラストレーションは、私自身の絵画作品『水辺の桜』を中心にコラージュ手法で製作しております。「花」の季節を感じていただければ幸いです。

The cover page design is entitled : "Cherry blossoms at the water's edge"

Designer : Hiroaki Okada

(Associate Professor, Faculty of Education, Mie University)

This cover page illustration, on the basis of my art "Cherry blossoms at the water's edge", is produced in the way of collage. I hope you enjoy the season of flowers with my work.

目次

Contents

I T時代における三重大学

Mie University in the age of Information Technology

1. 人文学部の場合
The pattern of Faculty of Humanities and Social Sciences 岡田幸宏1
2. 教育学部教官による「地域連携と社会活動」のデータ・ベース化と公開
The Making of a Database and Offering Publicly the Social Contributions of the Professors in the Faculty of Education 山田康彦3
3. 医学部附属病院医療情報部での取り組み
The Tackle in Medical Information Center, University Hospital 山本皓二5
4. 生物資源学部におけるこれまでの対応と今後
The Correspondences in the Faculty of Bioresources until Now and After This 亀岡孝治7
5. 図書館と情報リテラシー教育
Library and Education of Information Literacy 河谷宗徳9
6. 第1回近畿脳神経血管内治療セミナー
The First Kinki Seminar for Intravascular Neurosurgery 滝 和郎.....11
7. 第20回日本画像医学会
The 20th Annual Meeting of the Japanese Society of Medical Imaging Imaging Diagnosis at the Turn of Century and Beyond -Dream, Challenge and Technical Innovation 川村壽一.....13
8. 第183回日本内科学会東海地方会・第25回生涯教育講演会
The 183rd Tokai Congress of The Japanese Society of Internal Medicine and the 25th Career Educational Meeting 足立幸彦.....15
9. 第22回心臓核医学研究会
22th Nuclear Cardiology Meeting 中野 赳.....17
10. 東海整形外科集談会（第184回）
Tokai Orthopaedic Association Meeting (The 184rd) 内田淳正.....17
11. 第115回日本循環器学会東海地方会
115th Scientific Meeting of Japanese Circulation Society of Tokai area 井阪直樹.....17
12. 第30回臨床アレルギー講習会－アレルギー疾患の最近の話題－
The 30th Clinical Workshop on Allergy –Topics on Allergic Diseases－ 間島雄一.....18
13. 第6回日本冠動脈外科学会
6th Annual Meeting of the Japanese Association for Coronary Artery Surgery 矢田 公.....18
14. 第5回基盤的癌免疫研究会総会
The 5th Annual Meeting of the Society for Fundamental Cancer Immunology 珠玖 洋.....18
15. 第54回日本細菌学会関西支部総会
Annual Meeting of Japanese Society for Bacteriology (Kansai Branch) 伊藤康彦.....19
16. 第20回日本痴呆学会
The 20th Annual Meeting of the Japanese Society of Dementia Research 葛原茂樹.....19
17. リウマチ教育研修会
Seminar in Rheumatic Disease 内田淳正.....19
18. 日本水産学会中部支部大会
The 1st in 2001 Annual Meeting of the Chubu Branch of the Japanese Society of Fisheries Science 柏木正章.....20
19. 日本農芸化学会中部支部第132回例会
The 132nd Chubu Regional Meeting of the Japan Society for Bioscience, Biotechnology, and Agrochemistry 田中晶善.....20

英文は日本語の要約です。

The English text is a condensed version of the Japanese articles.

I T時代における三重大学～人文学部の場合

Mie University in the age of Information Technology

～The pattern of Faculty of Humanities and Social Sciences

三重大学人文学部は、人文科学、社会科学系の様々な学問領域を教育・研究の対象とする文科系総合学部である。文系の学問領域においても、様々なデータや情報入手することの重要性は、理系の学問領域に劣るものではない。かつて、人文学部も、首都圏や京阪神の大学と比べて様々な情報に接する機会に乏しいという地方大学の悲哀を折に触れて味わってきた。しかし、昨今のI T (Information Technology) の普及のおかげで、インターネット等の手段を通じて、最新の重要な情報や、従来なかなか手に入れることのできなかった世界中の情報に気軽に接することが可能となり、この点で、中央と地方との情報格差は確実に縮まってきているともいえよう。

他方、このようなI Tの恩恵に浴するだけでなく、人文学部として、I T時代、I T社会に積極的に寄与していくことが強く求められよう。もちろん、文系学部であるため、I Tの技術的な側面、ハード面について積極的な役割を果たすことはもとより困難である。しかし、I T時代に、文科系学部としての人文学部が果たすべき役割は、他の理系学部と比べて必ずしも小さいものではない。

まず、人文学部には、情報発信基地・情報発信者としての役割が、他学部と同様に期待されよう。人文学部は、学部レベル、学科レベル、専門分野レベル、あるいは教官個人レベルと様々ではあるが、人文科学・社会科学に関する様々なデータ、ノウ・ハウ、情報、等々を蓄積・保有している。こういったデータ・情報等を社会に対して発信し、また学外の人々が自由にアクセスできるよう開放することが人文学部には求められよう。そのためには、人文学部としてデータ・情報を発信・公開するための独自のシステムを構築・保有することが必要となるが、残念ながら現状のそれは極めて貧弱といわざるを得ず、一部の教員の趣味の域をでるようなものではない。人文学部の情報発信基地・情報発信者としての役割を自覚するのであれば、人文学部をあげて組織的に、データ・情報を自由に発信・公開することの可能なシステムを構築することが喫緊の課題となろう。

次に、人文学部の教育においても、たんに文系的な知識を教授するだけでなく、情報に自由にアクセスし、また情報の発信能力をもつ人材を育てることが必要となる。現在、人文学部の情報教育は、必修科目として、共

IT allows us access, through the internet, to the newest and most important local and global information. We should not only expect to benefit from IT, but we, as an Arts department, should also contribute toward IT. Although we cannot make a direct contribution to internet technology, we must play an important role, just as the other Science departments have.

First of all, we must contribute by providing information. For this purpose, we have to construct a system which makes it easy for society to access the data and information that we have.

Secondly, we have to educate students to be able to send and gather information via the use of IT. Unfortunately, we do not currently have an adequate curriculum for this aim; therefore, we ought to have a discussion about how we can promote our IT curriculum.

Thirdly, it is necessary for us, as scholars of the Arts, to study and research the effects of IT on culture and society. There are many significant problems in our field to be solved, such as the issue of rights in the network society, or how and to what extent to regulate e-commerce, amongst many others.

通教育における「情報科学基礎」が用意されているだけである。学生が希望すれば、同じく共通教育の「情報科学概論」を履修することも可能であるが、学部の専門教育として情報教育が皆無という点は改善の余地があるのではないか。ただ、学部レベルでの情報教育のためには、専門教員の確保、パソコン室の設置、管理・運営の体制づくり、授業科目の設定、等々、乗り越えなければならない山がいくつも控えている。人文学部としては、議論をつくして、こうした山をひとつひとつ乗り越えていく必要があるだろう。



さらに、人文学部およびそのスタッフは、このIT時代に研究面でも積極的にかかわっていくことが求められよう。人文学部は、その学科構成が示すように、人間の文化や人間社会の研究をその基礎にしている。現在、ITが文化および社会を構成する重要なファクターであるとするれば、IT文化、IT社会そのものが、人文学部を構成する諸学問の研究対象となる。例えば、ネットワーク社会における権利をどう考えるか、電子商取引をいかに発展・規制するか、ITの時代において人はいかに生きるべきか、等々である。IT時代において、人文学部を構成する様々な学問領域も、ITそのものに積極的に向き合っていくことが重要になっている。なお、この観点は、教員個々人の自発的な研究で一定の成果をあげることができるため、上記2点と比べるとそれなりの進展をみせているともいえるが、今後は、シンポジウム、公開講座、等々、学部レベルでの取り組みも必要となろう。

以上、思いつくままに書き連ねたが、IT時代において、これと積極的に向き合うための人文学部の課題は、なかなか多そうである。



筆者プロフィール
岡田 幸宏
人文学部教授（法学修士）
1962年生

Profile
Yukihiro OKADA
Professor, Faculty of Humanities
and Social Sciences
(Master of Law)
Born in 1962

教育学部教官による「地域連携と社会活動」の データ・ベース化と公開

The Making of a Database and Offering Publicly the Social Contributions of the Professors in the Faculty of Education

「IT時代」といわれる中での教育学部における2000年度の特筆すべき試みは、「地域連携と社会活動」という調査をネットワークシステムを使って行い、その結果をデータベースにし、かつ情報公開しようとしていることである。この調査の契機は、全学の広報ネットワーク運営室からの調査の依頼であった。教育学部は、教育関係と同時、人文・自然諸科学や芸術、スポーツ等の様々な専門分野からなる総合的な学部であることが特徴である。そしてその特徴にふさわしく、学部としてのみならず所属する教官個々に教育関係をはじめ多様な専門分野を通じた様々な社会貢献を行っている。しかしそれらは、これまで十分に情報提供されてこなかった。そこで学部広報管理委員会が中心になって、このような学部の特色に適した調査項目を設定し、しかも多量の調査内容や結果を効率的に処理し、データベース化しさらにそれを情報公開するために、その調査をネットワークシステムを使って行ったのである。その調査項目は、次の通りであった。

- ・学会・学術団体の活動への貢献
 1. 現在の所属学会・学術団体／2. 学会・学術団体等の活動
- ・教育関連領域での社会貢献
 1. 教育行政・政策及び施策への支援・貢献（諸団体も含む）／2. 現職教員の研修・研究活動への貢献／3. 学校や教師の教育・研究活動への直接支援／4. 教育関係の共同研究や研究会の実施・参加／5. カウンセリング・相談活動への貢献／6. 子ども・青年の学習・文化・芸術活動への支援・貢献／7. 生涯学習・社会教育への貢献／8. 他大学等の教育活動への貢献／9. 科目等履修生・専攻科生・他大学学生指導の受け入れ／10. その他教育関係での社会貢献
- ・教育関係以外の各種専門分野での社会貢献
 1. 行政・政策および各種施策への支援・貢献（諸団体も含め）／2. 文化・芸術分野での貢献／3. 医療・健康・福祉分野での貢献／4. 環境分野での貢献／5. 情報関連分野での貢献／6. 人権分野での貢献／7. 地域の産業・経済等の振興、街づくりへの貢献／8. 教育関係以外の専門分野の共同研究や研究会の実

For these so-called times of Information Technology, we made remarkable developments in the Faculty of Education during 2000. We gathered data on social activities and contributions of which the professors had been working on, by having them input their own data, using the computer network system. This collection of data is on-going to form a databank, which will be available publicly on the Faculty homepage. Through our actions, two things can be said: first, that the Faculty of Education is filling wide and various roles in Mie Prefecture and other communities, besides the training of school teachers. The Faculty's characteristic is one of a faculty containing various research staff who specialize not only in educational research but in many other special studies. Some professors are practically working to improve educational activities and policies, or counseling children, whilst others are contributing to life-long learning, arts, social welfare, environmental protection, human rights, information science and so on. These facts have not been publicly advertised sufficiently till now. Secondly, we have demonstrated that we can gather answers to questions by using computer network systems. It is a new method of investigation and is able to save natural resources and labor and is an area that we must continue working at, to develop even further.

施・参加／9．その他専門分野での社会貢献

・研究費の受け入れなど

1．科学研究費の受け入れ／2．民間等との共同研究
・受託研究の受け入れ／3．奨学寄付金等の研究費の
受け入れ

・国際交流

1．海外出張／2．外国人研究者等の訪問／3．外国人
留学生の受け入れ

このように調査項目は、たんに審議会の委員を務めているとか、講演を行ったというような形式的なものではなく、実際にどのような内容の貢献を行っているのかがわかるような設定になっている。この調査には2001年3月9日現在で、65名の教官が回答し登録されている。このデータを整理し、近日中に公開される予定である。

この調査の意義として、主に2点指摘できる。一つは、このような個々の教官レベルからの社会貢献をデータベース化し公開することによって、教員養成や教育・研究に留まらない教育学部の広い社会的意義を示すことができ、同時にそれが専門分野をとおして地域社会に貢献しうる人材バンクになっていることを明らかにし、さらなる社会貢献を進める契機になっていくことである。二つ目は、ネットワークシステムを使った新しい調査の方法を開拓したことである。このような調査方法は、資源や労力を節約することを可能にする。こうした方法のさらなる精緻化と発展が求められてくるだろう。

また教育学部は現在、全学のネットワークに接続されている機器が746台、学部教官のLANサーバユーザー登録が96%であり、学生の情報教育のために3つの情報教育専用教室をもち、共通教育での「情報科学基礎」に加えて、学部として必修の「コンピュータ教育」という科目を設置するなどの整備を進めてきた。その他、附属学校園とのテレビ電話システムの構築をはじめとした教官、事務職員、附属学校園間のネットワークの拡充、様々な情報提供サービスのための学部及び各講座ホームページの充実、そしてセキュリティも含めたネットワークシステム管理運営の合理化や効率化が今後の課題になるだろう。



筆者プロフィール

山田 康彦

教育学部教授

1954年生

Profile

Yasuhiko YAMADA

Professor, Faculty of Education

Born in 1954

医学部附属病院医療情報部での取り組み

The Tackle in Medical Information Center, University Hospital

Abstract

日本の医療を取り巻く環境は今、大きな変動期にある。少子高齢化が進む中で医療費を抑える必要性から、国の政策として、かかりつけ医の充実、医療機関の役割分担の明確化が打ち出され、医療の中にも競争原理が持ち込まれてきた。その結果、不採算部門の切り捨てや医療機関の統廃合が進んでいる。高度先進医療を担う大学病院に対しても経営の効率化が迫られ、平成15年度から始まる独立法人化に向けて、黒字経営となることが要求されている。医学教育においても、客観的臨床能力試験の導入、卒後臨床研修の必須化など、臨床医としての素養を持った人材の育成が求められ、その一方で研究・教育機関として研究実績が要求される。

一方、インターネットの普及により、自分の健康情報に関する多くの医学知識が容易に入手出来るようになった。このことから、患者自身の知識レベルが向上し、これに伴って患者自身が医療を選択する時代へと変わろうとしている。これからの時代では、患者と主治医が患者のカルテ情報を共有し、患者自身が例えば検査結果などに関して第三者に意見を求めることも日常化すると考えられている。しかしこのことは、個々の医療機関にとつて、質の高い医療を常に提供しなければ淘汰されることを意味している。

ところで日本では、患者は自由にどの医療機関でも掛かることが出来る。この結果、良い医療を行うと評価された病院に患者が集中する。このことは、医療機関の役割分担という観点から見て決して良い現象では無い。特に、高度先進医療を行う拠点として三重大学医学部附属病院は存在し、主としてそのような医療を必要とする患者が利用すべき病院であるが、このことを社会の一般常識にまで持ち上げることは難しい。国全体で医療の効率化を進めるには、医療機関同士が互いに密に連携し、それぞれの役割を担いながら全体として質の高い医療を供給出来る地域社会を作り、住民が安心して近くのかかりつけ医に受診できる環境を構築する必要がある。今、まさに、このようなネットワーク医療の必要性が叫ばれている。

平成11年4月に厚生労働省が「診療録の電子媒体による保存について」という通達を出し、カルテの電子媒体による保存を法的に認めた。この時を境に、全国に電子カルテが急速に広がっていった。同時に、各種コード類や通信規約などの標準化に関するプロジェクトも精力的に進められ、電子カルテのネットワーク事業に多額の予算が積み込まれている。これらは全て、情報の標準化と共有化に対する支援であり、地域を越えた大きなネットワーク社会の中で生き残れる医療機関となることを要求している。大学病院にとって、これは、独立法人化される前に達成しておくことが望まれるが、残されている時間は少なく、行うことは余りにも多い。

医学部附属病院の医療情報部では、現在、幾つかの情報化プロジェクトを並行的に推し進めている。それは、これからのグローバル化社会を睨んでシステム的な観点から病院を見直し、病院内部のシステム作り、地域との連携部分、そして、地域の中に構築する質が高く安全な情報ネットワークの3つを柱とするプロジェクトである。その幾つかを簡単に紹介しよう。

* 病院内部のシステム作り

1. 新物流管理システムの開発

病院経営を考える上で最も重要なシステムの一つに医薬品並びに医療材料の物流管理システムがある。しかし、特に医療材料の場合、緊急時に使う物を事前に限定することが出来ないなどの理由から、病院の中で伝票を無くすことが最も難しい部分である。

ところで、現在、全ての医療材料に有効期限やロット番号まで含んだ新しいバーコード (EAN128) を製造ラインで付けるプロジェクトが進んでいる。並行して、全

After describing briefly about the national trends of globalization in medical fields, the need of community health care system is stressed. Several projects are introduced which are being carried out concurrently so that Mie University Hospital plays its key role in creating such a system. Roughly speaking, the projects are divided into three parts, the evolution of NET-IMIS-MIE (NETwork-oriented Integrated Medical Information System of MIE university hospital), the creation of a socket to outer society from NET-IMIS-MIE, and the development of a secure community healthcare system.

As the evolution of NET-IMIS-MIE, two systems are introduced; a totally paperless physical management system of materials used in our hospital, and a system specially designed to accumulate the detailed diagnoses by using ICD10 (International Codes of Disease). The physical management system uses the commercially available bar-codes such as JAN and EAN128 for the management of material, so that the system can deploy the tactics of e-commerce in the future. As the socket to outer society, an investigation of making a trustworthy communication system between clinics and our hospital is introduced. And, as a secure community health care system, a great innovation of secure community health care system just at the beginning of development is briefly described.

ての医療材料の詳細をデータベース化してネットワーク上に載せるプロジェクトも進行中である。近未来には、バーコードだけで流通過程が管理され、大幅な効率化が進む。

附属病院で開発した新物流管理システムは、この時代を先取りするシステムである。JAN や EAN128 などの一般流通コードを使うことや納入業者用に業者用システムを作成し提供することで、現時点で既に、新規購入の材料でも手書き伝票は不要となる。各部署での在庫量を極限まで減らし、中央材料部で一括管理して病院全体での在庫量を減らす方向に自然と向かう機構が組み込まれ、未来に起こるかも知れない電子商取引にも対応が可能である。

2. 臨床病名登録

病名コードの標準化プロジェクトが(財)医療情報システム開発センター(MEDIS-DC)で進められており、病名情報の交換では、標準病名コード(ICD10)を使うことが求められている。グローバル化社会に対応するには、避けて通れないであろう。しかし、病名の概念統一は難しく、標準病名コードだけで概念を全て網羅することは困難である。このシステムは、三重独自のコードと外部に提供する標準病名コードとの橋渡し機能を持った臨床病名登録システムである。当初、物流管理システムより前に完成させる予定でいたが、病名コード標準化プロジェクトの遅れから、手順が前後し、超過密スケジュールの中での開発となっている。

*内部から外部への橋渡し

1. 紹介状・逆紹介状システム

地域の医療機関との連携を密にしていくには、相互にメリットが無ければならない。紹介した患者が紹介先(大学病院)で受けた診療内容を紹介元である開業医側で参照出来るならば、開業医にとっても魅力的である。しかし、紹介元の医師がたとえ患者の掛かり付け医であったとしても、大学病院で行われた診療内容の全てを無条件に見せて良い訳ではない。そこには、患者個人のプライバシーと大学病院側医師の情報選択の自由を保証する必要がある。現時点で、このような機能を備えた紹介状・逆紹介状システムは存在していない。そのため、機能的には可能であっても実運用に耐えうるか、どこまでの制御が必要かなどを分析しながら、本格的なシステム開発に着手する必要がある。本システムは、これらのことを調べる実証実験システムとして、対象を津医師会の会員に限定して開発中の手作りシステムである。

*地域の中でのネットワーク・プロジェクト

1. 三重県地域保健医療福祉情報ネットワーク

これは、最終的には県下全域の全ての医療・福祉関係機関をネットワーク傘下に置き、紹介状をベースにしてセキュリティを保証した形で医療・福祉情報の共有化を図ることを目指したプロジェクトである。平成12年度末、経済産業省所管「先進的情報技術活用型医療機関等ネットワーク化推進事業」の一つに選ばれ、平成13年度の単年度事業として津、久居一志郡を中心とした12市町村を対象に開発が始まった。平成13年4月26日に上記ネットワークの推進協議会が発足し、本学医学部附属病院長の葛原教授が協議会委員長に選出された。協議会には、県、12市町村、津地区医師会、久居地区医師会、松阪地区医師会、歯科医師会一志支部、津薬剤師会、臨床検査技師会など医療・福祉関連機関が参加している。

システムは、開業医用の電子カルテシステム、基幹病院(三重大学病院、国立三重中央病院、国立三重病院)用システム、中央の長期保存データベースシステムという三つの大きなブロックに分かれている。夫々の開業医には、電子カルテシステムが提供され、そのバックアップシステムが中央に設置される長期保存データベースシステムである。本システムの最も大きな特徴は、これらのバックアップデータベースは共有化を前提としていないことにある。情報の共有化は紹介状が有って初めて動く。また、共有化する情報はその情報を作った医療機関並びに当該患者だけが制御できる点にある。システムには安心して使う為の工夫が沢山あるが、紙面の関係上、詳細は割愛する。

筆者プロフィール

山本 皓二

医学部附属病院教授

医療情報部

Profile

Koji YAMAMOTO

Professor, University Hospital

生物資源学部におけるこれまでの対応と今後

The Correspondences in the Faculty of Bioresources until Now and After This

1. bioNetの誕生からIT時代へ

IT時代という言葉は直訳すれば「情報技術時代」となるが、「情報技術に支えられた時代」といったイメージが妥当なのだろう。今使われているITは、単なる情報技術というより、ネットワークが絡む情報技術といった意味合いが込められているようだ。この意味での三重大学における私とITとの関わりは、三重大学にキャンパスネットワークが生まれた時から始まっている。すでに転出された本多潔、溝口勝教官が中心になって部局分散型のネットワークbioNetが生物資源学部に生まれ、続いてATMを核とする100ベースのネットワークに拡張された時、私と梅川逸人教官が2代目ポストマスターとなった。この時から今に至るまでどういうわけかネットワーク運営の中心に座り続けてきたが、そろそろ世代交代の時期が近づき幾分かホッとしている昨今である。

bioNetは農学系の中では最も早く充実したネットワークの1つで、私たちはさまざまな工夫をしながらネットワークを育ててきた。その過程で大きな財産が築かれたが、それはボランティア活動を厭わない教官たちで構成される生物資源学部情報ネットワーク専門委員会である。すでに大きな活動を終え消え去ったが、学生ボランティアグループ(名称maric)も記憶と記録に留めたい1つの歴史である。現在のネットワーク構築までに関わった教官、事務官、学生はかなりの数に達するが、最近では事務官の積極的な協力が顕著でその貢献は教官サイドをはるかにしのぐ勢いである。

2. 生物資源学部での活動

bioNetは誕生した直後から附属演習林のライブ画像をweb上で公開するなど、積極的な活動を押し進めてきた。これはすべての階層でのボランティア活動の結果であるが、当初の活動に関しては大学院生の大きな寄与に支えられていた。さまざまな活動、インフラの充実を図りながら、ネットワークは附属農場、附属演習林、附属水産実験所、練習船「勢水丸」を結ぶところから始まり、現在はこれらすべての場所にサーバーが構築ないしは構築が予定されている。生物資源学部は昨年の学科改組で新しく3学科体制に生まれ変わったが、学部必修科目のひとつである附属施設体験実習でのネットワークの新たな利用形態も模索されている。

Abstract

BioNet is one of the best serving network systems in the agricultural field. For example, when it was first implemented, it was used to present live images of the Experimental Forest. Initial BioNet connections were with the Facilities of the Experimental Farm, the Experimental Forest, the Fisheries Research Laboratory and the Training Ship "SEISUI MARU". At present, a Linux or UNIX server exists in each facility. In two of the new IT projects, set up by the Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries, commencing 2001, some members of the Information and Network Committee in the Faculty of Bioresources will closely cooperate. Furthermore, some members will also participate in the "Sea Weather Forecast Project" by the Taisei Construction Company, which aims at the regeneration of power at Ago Bay in Mie Prefecture. Unfortunately, because of the poor rate and volume of communication between Mie University and Nagoya University, Mie University will be greatly disadvantaged when the internet is changing over to its new stage. Therefore, it is an urgent priority for the President of Mie University to submit a request, to the Ministry of Education Science and Culture, for the improvement of the backbone circuit.

この bioNet をベースに、私は農林水産省の唯一の I T プロジェクトにフィージビリティスタディから参加し、「食味・外観などの数値化が困難な現象の数値化支援手法の開発」という課題に「ネットワーク、データベース、Java」をキーワードとして3年間取り組んできた。この研究は発展的に解消され、平成13年度からは新たに6大学（三重大学生物資源学部、岩手大学農学部、信州大学工学部、和歌山大学システム工学部、宮城教育大学、新潟大学農学部）と2研究所（長野県農村工業研究所、三洋電機メカトロニクス研究所）が中心となって「分散協調型多次元農産物情報センシングシステムの開発」という戦略的農業研究プロジェクトが私をチームリーダーとしてスタートすることになる。また、生物資源学部情報ネットワーク専門委員会のメンバーが中心となる「三重県下の気象データ用の WEB サーバ構築」もこの I T プロジェクトの研究課題として組み込まれ、私たちの研究チームと連携して研究にあたることになる。さらに、英虞湾の再生を目指して大成建設が中心となって三重県と共に進めている「海の天気予報」プロジェクトにも情報ネットワーク専門委員会の複数メンバーが参加する予定である。

3. 課題

生物資源学部は、情報教育・I T 関連研究の充実を目指すとともにエクステンション活動への一歩を踏み出しており、新たな I T 時代を見据え、社会に貢献する情報教育・I T 関連研究戦略を築こうとしている。インターネットは、すでに IPv4→IPv6、サーバー型→PtoP、CGI→Java、HTML→XML などのキーワードで代表される全く新しいステージに移行しつつある。しかし、このような重要な時期にもかかわらず、現在三重大学では非常に困難な状況が次世代ネットワーク構築の行く手にたちふさがっている。その1つは、後発の専門性に欠け戦略を持たない学長直属の上部組織がボランティアによって築かれてきたネットワークの自律的発展の阻害要因となっていることである。もう1つは三重大学のネットワークの最大の弱点である名古屋大学とのバックボーンの通信容量・速度の劣悪さである。農林水産省の I T プロジェクトのうち、三重大学関連課題のサーバー設置が外部アクセスを考えた場合三重大学では困難という問題が表面化してきており、生物資源学部のすべての研究（I T 研究からゲノム研究まで）のスムーズな遂行のためにも、バックボーンの改善に関する学長の文部科学省への戦略的要請は急務であろう。



筆者プロフィール

亀岡 孝治

生物資源学部教授（農学博士）

1955年生

Profile

Takaharu KAMEOKA

Professor, Faculty of Bioresources

(Doctor of Agriculture)

Born in 1955

図書館と情報リテラシー教育

Library and Education of Information Literacy

情報技術の急速な発達に伴い、図書館が取り扱う資料やサービスも大きく変化しています。カード式の日録や冊子体の雑誌記事索引は、OPAC(オンライン蔵書目録)や MAGAZINEPLUS (国内雑誌記事索引)、Current Contents Connect (海外論文目次速報)などのオンラインデータベースとして提供されるようになりました。また、CD-ROMなどの形式で刊行される資料も増加しました。学術雑誌についても、ここ数年の間に電子ジャーナルへの移行が加速されています。

附属図書館では、これまで図書館の資料や設備の利用ガイダンスに重点を置いた利用者教育を実施してきました。しかし、インターネットの爆発的な普及や電子化された資料の増加に伴い、従来型の利用者教育では不十分な状況が生じています。印刷媒体の資料やレファレンスツールの使用方法を基礎にしながらも、新しい媒体や技術を効果的に使いこなさないと、授業やゼミナールで必要とされる資料や情報を手にすることができなくなりつつあります。コンピュータやネットワークを活用して学術情報を処理する能力の向上を目指す“情報リテラシー教育”の観点から、図書館のサービスを再構築することが重要な課題となっているといえます。

このため、平成12年度には、インターネットやオンラインデータベースを用いて授業や論文作成に必要な文献を効率的に入手するための情報検索講習会を開催しました。また、これまで手薄だった留学生の皆さんに対する図書館ガイダンスにも情報検索講習会を組み込んで実施しました。さらに、情報リテラシー教育の環境整備のために、図書館内の情報検索コーナーを改装し、「Lib-Frontier (リブ・フロンティア)」という愛称で再生しました。

Lib-Frontierは、単なるコンピュータ端末の台数の増強にとどまらず、次のような三つのコンセプトに基づいて運営しています。

(1) インターネットを利用した学習環境

OPACやオンラインデータベース検索用の専用端末8台の他に、最新のWindows2000を登載したパソコン10台を含む16台の学習用のネットワーク端末が利用できます。学習用端末では、OPACやオンラインデータベースの利用はもちろんのこと、ホームページなどのインターネット上の様々な資源にアクセスして情報を収集することができます。また、情報処理センターの学生用メール



オープニング式典

The rapid development of information technology has changed greatly the materials and services with which the library deals with. OPAC, online databases, CD-ROM, electronic journals, and other electronic materials play an important role in the library. How we educate users about the library also needs to be reconstructed, as information management education now utilizes computers and networks.

On that account our university library now holds information-retrieval classes to teach users how to use the Internet and online databases. Furthermore, we have remodeled the computer terminal area in our library to accommodate information management education. We have named this, “Lib-Frontier”, and are managing it based on the following three concepts.

1) Internet access area for study.

Students can use computers to search databases, browse homepages, use e-mail, and collect various data from the Internet.

2) Support for information management.

A mobile screen and projector can be installed at request, and we hold information-retrieval classes.

3) Barrier-free information access.

Multi-lingual OS are installed and foreign students can use computers according to their native language.

We want to utilize “Lib-Frontier” and enhance our information management education programs to benefit all educational activities at our university.



講習会

サーバを利用して電子メールによる情報交換を行うことも可能です。収集した情報を分析、加工するための、ワープロや表計算ソフト、プレゼンテーションソフトもインストールされています。

(2) 情報リテラシー支援の場

館内の限られた空間を有効に活用するために、普段は学習用に開放している端末コーナーに可動式のスクリーンとプロジェクタを設置することにより、講習会場として機能するようになってきました。受講生は、講義の聴講だけでなく、実際にネットワーク端末を操作しながら、オンラインデータベースの検索方法などの実習を行うことが可能です。また、専用の教室ではなくオープンスペースで開催することは、気軽に講習会に参加できる雰囲気を提供するとともに、受講生以外の来館者に対する啓蒙効果を期待できると考えています。

(3) 情報アクセスのためのバリアフリー

新しく導入した学習用端末は、留学生の皆さんの要望にお応えして、母国語でインターネット等を利用できるように、OS レベルでマルチリンガルに対応しています。また、日本語に不慣れな場合を想定し、英語版のWindows 2000とMS Officeをインストールした端末を1台設置してあります。さらに、タッチ式のディスプレイを用いて、学外の利用者の方も気軽にOPAC等の検索を行うことができる端末も設置しました。

メディアセンターとしての図書館が大学の教育活動に果たす役割を考えるうえで、図書館による情報リテラシー教育は欠かせない機能となるはずです。私達図書館スタッフは、Lib-Frontierを十分に活用し、講習会の開催頻度や種類、内容の充実を図りながら、授業との関係や支援等についても積極的に取り組みたいと考えています。

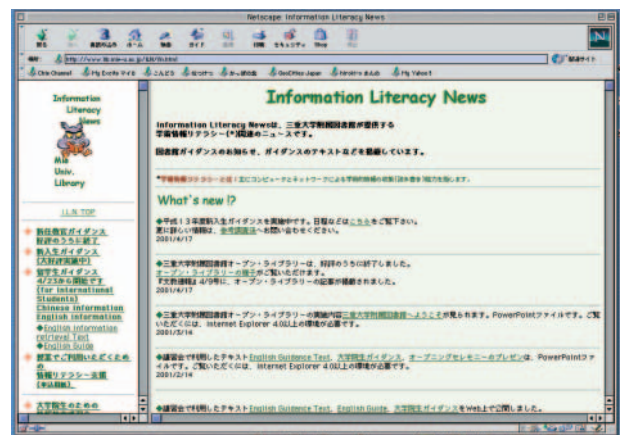
※附属図書館の情報リテラシー教育に関する情報は、図書館ホームページの「Information Literacy News」(<http://www.lib.mie-u.ac.jp/ILN/iln.html>)をご覧ください。



検索実習



インターネット端末



筆者プロフィール
河谷 宗徳
附属図書館情報サービス課
参考調査係

Profile
Munenori KAWATANI
Reference Service Unit Information
Service Unit University Library

第1回近畿脳神経血管内治療セミナー The First Kinki Seminar for Intravascular Neurosurgery



平成12年10月14日、大阪国際交流センターにおいて、第1回近畿脳神経血管内治療セミナーを開催しました。近年、中枢神経疾患に対する血管内治療が普及し、特に脳動脈瘤に対するコイル塞栓術が急速に発展してきてい

The First Kinki Seminar for Intravascular Neurosurgery was held on October 14, 2000, at International House, Osaka. Over 230 doctors from neurosurgery, neuroradiology and neurology attended the seminar. The main themes were carotid stenting and aneurysm embolization. There were 11 instructive lectures and 19 oral presentations. Two special lectures were presented: one by Professor Dion (Department of Radiology and Neurosurgery, Director of Interventional Neuroradiology, Emory University Hospital), entitled, "Intracranial Angioplasty and Stenting" and the other by Professor Rufenacht (Department of Neuroradiology, University of Geneva), entitled, "The Progress in Obliteration Materials in Aneurysmal Embolization and its Use for Clinical Cases". In a nother room, the hands-on course was held, using vascular models for the carotid artery and the cerebral aneurysm. Due to many hot discussions and despite the very tight schedule, the seminar was quite fruitful. I thank all of my colleagues and participants for their cooperation in this seminar.

第1回 近畿脳神経血管内治療セミナー
平成12年10月14日(土)

これから脳神経血管内治療を始めようとする先生方の教育講演を中心としたセミナー
症例報告等、ビデオを含め一般演題の広帯を歓迎いたします

会場 大阪国際交流センター
〒543-0001
大阪市天王寺区上本町8丁目2番6号
TEL.06-6772-6729

会長 滝 和郎
三重大学医学部脳神経外科
平成12年10月15日(日)に少人数の方を対応とした、動物を用いたハンズオンを計画しております。
詳細は事務局までお問い合わせ下さい。

主題
- 一般演題
- 教育講演
- 脳神経血管内治療に必要な基礎知識
- 各参加者の演題発表と臨床手技
- 特別講演
- Daniel A. Rufenacht, M.D.
- Jacques E. Dion, M.D.
- ハンズオン

第1回 近畿脳神経血管内治療セミナー事務局: 三重大学医学部脳神経外科教室内
〒514-8507 津市江戸前2-174/TEL.059-232-1111(内線5611)/FAX.059-231-5212

ます。また、平成13年度より日本脳神経血管内治療学会認定医制度が発足するのに先立ち、この分野を専門的に扱う医師の育成が必要と考えられ、本セミナーを発足させるに至りました。参加者は230名を数え、頸部頸動脈ステント、脳動脈瘤塞栓術に関する教育講演11題を中心に、一般演題19題の発表があり、活発な討論が行われました。特別講演には外国から2名のエキスパートをお招きし、Jacques E. Dion 先生 (Professor of Radiology and Neurosurgery, Director of Interventional Neuroradiology, Emory University Hospital) に “Intracranial angioplasty and stenting”、Daniel A. Rufenacht 先生 (Professor of Neuroradiology, University of Geneva) に “The progress in obliteration materials in aneurysmal embolization and its use for clinical case” をお願い致しました。



また別会場では血管モデルを使用して、頸動脈ステントと脳動脈瘤塞栓用コイルのハンズオンを企画し実際に機材に触れていただく機会を設け、熱気にあふれた場となりました。翌15日には、参加希望者15名と Daniel A. Rufenacht 先生と共に宮崎の研究施設に移動し、ブタの動脈瘤モデルを用いたハンズオンコースを企画しました。脳動脈瘤塞栓用のコイルやステントの実物を血管内に留置していただき好評を博しました。

本会は年1回の予定で、事務局を三重大学脳神経外科に置き、第2回は平成13年9月15日に和歌山県立医科大学脳神経外科の主催で行われます。

最後に本セミナー開催にあたりご協力いただきました関係者の方々に厚く御礼申し上げます。



筆者プロフィール

滝 和郎

医学部教授

1948年生

Profile

Waro TAKI

Professor, Faculty of Medicine

Born in 1948

第20回日本画像医学会 「21世紀にかける画像医学の進歩—夢、挑戦、技術革新」 The 20th Annual Meeting of the Japanese Society of Medical Imaging Imaging Diagnosis at the Turn of Century and Beyond— Dream, Challenge and Technical Innovation

平成12年度の日本画像医学会は三重大学医学部泌尿器科教室がお世話して、平成13年1月18日、19日四日市市で開催された。日常の臨床における疾患診断と治療手段を考える時、各種画像の提供する映像情報は各診療科において不可欠のものといえるが、たゆまぬ技術革新に裏打ちされた新しい画像診断医学の発展に向けて、今回ひとつの世紀の節目にあたり、まさに21世紀への夢を語っていただくと共に新たな挑戦をしていただきたいと考えて、表に掲げるような特別企画を用意した。

招請講演として、ネブラスカ大学メディカルセンターから Thomas J. Imray 先生をお招きして、お得意とされる泌尿器系の画像診断のうち、後腹膜線維症についての今日の内容につきお話しいただいた。また、本学会の理事でもある尾本良三 埼玉医科大学教授より、バーチャルリアリティ、三次元画像を駆使した Minimally Invasive Surgery (MIS) としてのロボット手術について特別講演をしていただき、基調テーマにふさわしく、夢に対する限りない挑戦についてのお話で、まことに時宜を得たものであった。

シンポジウムは4題企画した。1題は次世紀への核医学の進歩の代表として腫瘍 PET を取り上げ、他の3題は治療手段を兼ね備える画像診断として血管系 IVR のうち、今話題になっている脳、心、大血管を中心テーマとして選んだ。ワークショップは8題とし、臓器別、疾患別、modality 別に、また、一部は評議員からのアンケートを基にして、いずれも各診療科領域では topical な話題を選んだ。これらシンポジウム、ワークショップ共に会場からも発言が続き、白熱した討論がなされた。

一般演題は62題頂戴し、すべて口演としたが、各会場で熱心な発表と質疑応答が行われた。その他、フィルムリーディングセッションは8題を準備し、成績優秀者用に賞品を用意したが、問題がやや難しかったのか、賞品が不足する事態にはならなかったものの、会員の正解に対する追求心は会場の熱気より感じられた。ランチオンセミナーは2題とし、大石元 奈良県立医科大学教授より、21世紀に向けての超音波検査につき、また、山本皓二 三重大学教授より、三重県下における遠隔画像診断ネットワークにつき講演していただいたが、特に基調テ

The 20th Annual Meeting of the Japanese Society of Medical Imaging was held in Yokkaichi, Mie Prefecture on 18 and 19 January, 2001. The fundamental themes of this meeting was a review of the technological advancements in imaging diagnosis as well as a look at the future visions, challenges and technical innovations existing at the turn of century and beyond.

Plenary sessions consisted of one special lecture, one invited lecture, four symposiums, eight workshops and one film reading session. One satellite symposium and two luncheon seminars were provided. An invited lecture, entitled ‘Retroperitoneal Fibrosis: Current Imaging Concepts’, was given by Dr. T.J. Imray (U.S.A.). A special lecture, entitled ‘Robot Surgery: Present and Future’, was given by Dr. R. Omoto.

As a symposium, the following four topical themes were selected:

- 1) Fluorodeoxyglucose-Positron Emission Tomography (FDG-PET) in Clinical Oncology;
- 2) Imaging Diagnosis for IVR in Cerebral Vessels, the Head and Neck Area;
- 3) Imaging Diagnosis for IVR in the Heart and Large Vessels; and
- 4) Clinical Applications of Interventional MRI - Current Status.

As a workshop, eight topical themes were selected as follows:

- 1) Clinical Usefulness of Multislice CTs;
- 2) Imaging Diagnosis in Collagen Diseases;



1 主会場風景
The scenery of the main meeting place

ーマにぴったりであった山本教授の講演は大変好評で、今さらながらに会員の興味をひく分野であることが認識された。サテライトシンポジウムは、「造影MRIのすべて：新しい潮流」をテーマとし、竹田寛 三重大学教授の司会のもと、肝、婦人科疾患、心臓大血管領域の各造影MRIの3題を選んでいただいた。

各会場とも参加された先生方には、診療科の枠にとらわれなで、臓器疾患の診断と治療に際して、画像を共有するという立場から熱心な討論をしていただき、また、学会当日は、1月にしては暖かい好天に恵まれ、無事、日程を終了できたことを感謝している。

表：第20回日本画像医学会 特別企画プログラム

招 請 講 演	Retroperitoneal Fibrosis : Current Imaging Concepts T.J.Imray,M.D.(University of Nebraska Medical Center)
特 別 講 演	ロボットサージェリーの現状と将来:低侵襲手術を目指して 尾本 良三先生 (埼玉医科大学外科)
シンポジウム	1. FDG-PET による腫瘍診断の現況と今後の展開 (司会) 遠藤 啓吾先生 (群馬大学核医学科) 今村 正之先生 (京都大学腫瘍外科) 2. 脳血管・頭頸部のIVRに役立つ画像診断 (司会) 多田 信平先生 (東京慈恵会医科大学放射線科) 滝 和郎先生 (三重大学脳神経外科) 3. 心・大血管領域のIVRに役立つ画像診断 (司会) 松山 正也先生 (東海大学放射線科) 中野 起先生 (三重大学第一内科) 4. Interventional MRI: 臨床応用における日本の現状 (司会) 松田 昌之先生 (滋賀医科大学脳神経外科) 石口 恒男先生 (名古屋大学放射線科)
ワーク ショップ	1. マルチスライス CT: 各領域における有用性 (司会) 中村 仁信先生 (大阪大学放射線科) 片田 和廣先生 (藤田保健衛生大学衛生学部) 2. 膠原病の画像診断 (司会) 鳥飼 勝隆先生 (藤田保健衛生大学内科) 宗近 宏次先生 (昭和大学放射線科) 3. 卵巣腫瘍の臨床病理と画像診断 (司会) 富樫 かおり先生 (京都大学映像医療学) 小西 郁生先生 (信州大学産婦人科) 4. 良性肝腫瘍および腫瘍類似性病変の画像診断 (司会) 税所 宏光先生 (千葉大学第一内科) 森 宣先生 (大分医科大学放射線科) 5. 腎腫瘍の画像診断に必要な知識と最近の話題 (司会) 大石 幸彦先生 (東京慈恵会医科大学泌尿器科) 杉村 和朗先生 (神戸大学放射線科) 6. 骨・軟部腫瘍の画像診断 (司会) 松井 宣夫先生 (名古屋市立大学整形外科) 福田 国彦先生 (東京慈恵会医科大学放射線科) 7. 肺動脈塞栓症の画像診断 (司会) 増田 善昭先生 (千葉大学第三内科) 栗林 幸夫先生 (慶応義塾大学放射線診断科) 8. インプラントにおける画像診断支援 (司会) 有地 榮一郎先生 (愛知学院大学歯科放射線科) 代居 敬先生 (日本歯科大学歯科放射線科)
サテライト シンポジウム	造影MRIのすべてー新しい潮流ー (司会) 竹田 寛先生 (三重大学放射線科) 1. 肝の造影MRI 村上 卓道先生 (大阪大学放射線科) 2. 婦人科領域の造影MRI 起塚 裕美先生 (防衛医科大学校放射線科) 3. 心臓大血管領域の造影MRI 佐久間 肇先生 (三重大学放射線科)
ランチョン セミナー	1. 21世紀に向けての超音波検査 大石 元先生 (奈良県立医科大学腫瘍放射線科) 2. 三重県下における遠隔画像診断ネットワーク 山本 皓二先生 (三重大学医学部医療情報部)

- 3) Clinical Pathology and Imaging Diagnosis in Ovarian Tumors ;
- 4) Imaging Diagnosis in Benign Liver Diseases ;
- 5) Imaging Diagnosis in Renal Tumors - Current Topics and Implications ;
- 6) Imaging Diagnosis in Bone and Soft Tissue Tumors ;
- 7) Imaging Diagnosis in Pulmonary Artery Embolism ; and
- 8) Imaging Diagnosis Supporting Dental Implants.



2 尾本良三教授による特別講演「ロボット手術：現在と未来」
Prof. R. Omoto gave us a special lecture, entitled “Robot surgery : Present and future”



3 ランチョンセミナーの講師 (山本皓二 三重大学医学部附属病院医療情報部 教授 (左)) との歓談
We had a pleasant talk with one of speakers in the luncheon seminars (Prof. K. Yamamoto (left), Medical Information Center, Mie University Hospital).



筆者プロフィール
川村 壽一
医学部教授 (医学博士)
1938年生

Profile
Juichi KAWAMURA
Professor, Faculty of Medicine
(Doctor of Medicine)
Born in 1938

第183回日本内科学会東海地方会 第25回生涯教育講演会

The 183rd Tokai Congress of The Japanese Society of Internal Medicine and the 25th Career Educational Meeting



愛知、岐阜、静岡、三重の4県の日本内科学会会員7500名から構成されている日本内科学会東海支部は、地方会を年3回行っている。平成13年2月17日(土)に、医局員、ボランティアの方々のご協力を仰ぎ、標記の地方会と生涯教育講演会を津市の三重県文化センター内の6会場にて開催した。両会とも出席単位が内科認定医、専門医の資格更新に必要とされ、各々560名、210名と多くの方の参加が得られた。地方会では182題と多くの症例報告などの演題が発表され活発な討論が行われた。生涯教育講演会では、名古屋大学の下方 薫教授、三重大学の葛原茂樹教授を始め、5名のエキスパートに、内科の各疾患分野をカバーして、診療のトピックスを講演していただ

The Tokai Congress of The Japanese Society of Internal Medicine is held three times a year with the participation of members of this society from the prefectures of Aichi, Gifu, Shizuoka and Mie. The 183rd Tokai Congress, together with the 25th Career Educational Meeting, was held on February 17, 2001, at the Mie Prefectural Culture Center in Tsu. Both meetings were presided over by myself, with the collaboration of the medical staff of our clinical department and many volunteers. Medical doctors specializing in Internal Medicine participated in this meeting and the recognized specialists could get units for applying to extend their status. There were a total of 182 presentations among which there

き、非常に有意義であった。本学会での発表を基礎として、多くの若い先生方の臨床医学研究の進展を祈念している。

were many interesting case presentations that were the subject of profound discussion. In the Career Educational Meeting, five experts, including Professor Shimokata from Nagoya University and Professor Kuzuhara from our University, gave very interesting lectures on the diagnosis and treatment of several diseases. We hope that presentations given at this meeting will stimulate the work of young clinical investigators.



筆者プロフィール
足立 幸彦
医学部教授（医学博士）
1943年生

Profile
Yukihiko ADACHI
Professor, Faculty of Medicine
(Doctor of Medicine)
Born in 1943

第22回心臓核医学研究会 22th Nuclear Cardiology Meeting

日時：2001年5月26日 9：00～

場所：国際サロン 名古屋駅前毎日ビル

講演者：米倉義晴先生、他

参加費：3,000円

代表者：三重大学第一内科 教授 中野 赳

問い合わせ先：〒514-8507 津市江戸橋2-174
三重大学第一内科

電話：059-231-5015

Fax：059-231-5201

Date：May 26, 2001, 9:00～

Venue：

Presentators：Dr. Yonekura, etc.

Open to the Public：¥3,000

Coordinator：K. Nakano

Office：The First Department of Internal Medicine, Mie University
Edobashi 2-174, Tsu, Mie

Phone：059-231-5015

Fax：059-231-5201

東海整形外科集談会（第184回） Tokai Orthopaedic Association Meeting

日時：2001年6月16日

場所：大正製薬ホール 名古屋市吹上

講演者：一般演題のみ、約45題

参加費：なし

代表者：三重大学整形外科 内田淳正

問い合わせ先：〒514-8507 津市江戸橋2-174
三重大学整形外科

電話：059-231-5022

Fax：059-231-5211

Date：June 16, 2001

Venue：Taisho Pharmaceutical Co. Main Hall

Presentators：45 presentators

Open to the Public：No restriction

Coordinator：A. Uchida

Office：Dept. Orthop Surg. Mie Univ. Medical School Edobashi 2-174, Tsu-shi

Phone：059-231-5022

Fax：059-231-5211

第115回日本循環器学会東海地方会 115th Scientific Meeting of Japanese Circulation Society of Tokai area

日時：2001年6月23日 12：00～

場所：三重県医師会館 津市桜橋2-191-4

講演者：松原 弘明 日本・1名

参加費：3,000円

代表者：井阪直樹 三重大学第一内科

問い合わせ先：〒514-8507 津市江戸橋2-174
三重大学第一内科

電話：059-231-5015

Fax：059-231-5201

Date：June 23, 2001, 12:00～

Venue：Mie Doctor's Association Hall 2-191-4 Sakurabashi, Tsu Mie

Presentators：Dr. H. Matsubara

Open to the Public：¥3,000

Coordinator：N. Isaka

Office：The First Department of Internal Medicine, Mie University,
Edobashi 2-174, Tsu, Mie

Phone：059-231-5015

Fax：059-231-5201

第30回臨床アレルギー講習会 —アレルギー疾患の最近の話題—
The Thirtieth Clinical Workshop on Allergy —Topics on Allergic Diseases—

日時：2001年7月1日
場所：三重大学講堂・三翠ホール 津市上浜町1515
講演者：日本国・6名
参加費：3,000円（一般） 1,000円（学生）
代表者：間島雄一 三重大学医学部耳鼻咽喉科・教授

問い合わせ先：〒514-8507 津市江戸橋2-174
三重大学医学部耳鼻咽喉科教室 竹内万彦
電話：059-232-1111 内線5637
Fax：059-231-5218

Date：July 1 2001
Venue：Mie University Auditorium, 1515 Kamihama
Presentators：6
Open to the Public：¥3,000 (public) ¥1,000 (student)
Coordinator：Yuichi Majima, Professor Department of Otorhinolaryngology
Office：2-174 Edobashi Tsu Mie 514-8507
Phone：059-232-1111 (5637)
Fax：059-231-5218

第6回日本冠動脈外科学会
6th Annual Meeting of the Japanese Association for Coronary Artery Surgery

日時：2001年7月6日～2001年7月7日
場所：三重県総合文化センター 女性センター
津市一身田上津部田1234
講演者：米国1、日本120、独1、伊1
参加費：10,000円
代表者：三重大学胸部外科教授 矢田 公

問い合わせ先：〒514-8507 津市江戸橋2-174
三重大学医学部胸部外科事務局
電話：059-232-1111
Fax：059-231-2845

Date：July 6 2001～July 7 2001
Venue：Mie Center for the Arts Women's Center
Presentators：USA 1 German 1 Italy 1 Japan 120
Open to the Public：10,000 yen
Coordinator：Isao Yada, Professor Department of Cardiovascular Surgery
Office：2-174 Edobashi Tsu Mie 514-8507
Phone：059-232-1111
Fax：059-231-2845

第5回基盤的癌免疫研究会総会
The 5th Annual Meeting of the Society for Fundamental Cancer Immunology

日時：2001年7月18日から7月19日
場所：アスト津 〒514-0009 三重県津市羽所町700番地
講演者：一般講演55題
外国特別講演者による特別講演2題
シンポジウム1題
参加費：5,000円
代表者：珠玖 洋（三重大学医学部第二内科教授）
問い合わせ先：〒514-8507 津市江戸橋2-174
三重大学医学部第二内科学教室
電話：059-231-5016
Fax：059-231-5200

Date：July 18th, 19th, 2001
Venue：UST TSU, 700, Hadokoro, Tsu, Mie 514-0009 Japan
Presentators：55 General presentators, 2 special oversea presentators, 1 symposium
Open to the Public：5,000 JPN yen
Coordinator：Hiroshi Shiku (The Second Department of Internal Medicine, Mie University School of Medicine)
Office：The Second Department of Internal Medicine, Mie University School of Medicine
2-174, Edobashi, Tsu, Mie, 514-8507 Japan
Phone：059-231-5016
Fax：059-231-5200

第54回日本細菌学会関西支部総会
Annual Meeting of Japanese Society for Bacteriology (Kansai Branch)

日時：2001年10月27日～2001年10月28日

場所：ホテルグリーンパーク津 津市羽所町700

講演者：日本2名

永井美之 国立感染症研究所エイズセンター長

渡辺昌俊 三重大学医学部病理学講座

参加費：1,000円(当日1,500円)、予稿集1,000円(当日1,500円)

代表者：伊藤康彦 (三重大学医学部微生物学講座教授)

問い合わせ先：〒514-8507 津市江戸橋2-174

三重大学医学部微生物学講座第54回日本細菌学会

関西支部総会事務局

電話：059-231-5008

Fax：059-231-5008

Date：October 27～October 28 2001

Venue：Hotel Green Park Tsu Tsu-shi

Presentators：Y. Nagai：(NIID) M. Watanabe (Mie University)

Open to the Public：¥,000 text：¥,000

Coordinator：Yasuhiko Ito (Mie University)

Office：Department of Microbiology Mie University School of
Medicine

Phone：059-231-5008

Fax：059-231-5008

第20回日本痴呆学会総会
The 20th Annual Meeting of the Japanese Society of Dementia Research

日時：2001年10月4日～5日

場所：アスト津(津駅前) 〒514-0009 津市羽所町700

講演者：特別講演13人(日本人および外国人)

一般講演80人(日本人)

参加費：5,000円

代表者：葛原茂樹(三重大学医学部神経内科学・教授)

問い合わせ先：〒514-8507 津市江戸橋2-174

三重大学医学部神経内科学教室

電話：059-232-1111(内線5494)

Fax：059-231-5082

Date：October 4～5, 2001

Venue：UST TSU, 700 Hadokoro, Tsu, Mie 514-0009, Japan

Presentators：13 invited speakers including several foreign re-
searchers and about 80 persons from Japan

Open to the Public：5,000 yen

Coordinator：Prof. Shigeki Kuzuhara
(Department of Neurology, Sch. Med. Mie Univ.)

Office：Department of Neurology, Sch. Med. Mie Univ.
2-174 Edobashi, Tsu, Mie 514-8507, Japan

Phone：059-232-1111(ext. 5494)

Fax：059-231-5082

リウマチ教育研修会
Seminar in Rheumatic Disease

日時：2001年10月28日

場所：グリーンパーク津 三重県津市

講演者：7名の講演者

参加費：1,000円

代表者：三重大学整形外科 内田淳正

問い合わせ先：〒514-8507 津市江戸橋2-174

三重大学整形外科

電話：059-231-5022

Fax：059-231-5211

Date：Oct. 28, 2001

Venue：Green Park Tsu

Presentators：7 guest speakers from Japan

Open to the Public：No restriction (¥,000)

Coordinator：A. Uchida

Office：Depart. Orthop Surg Mie Univ. Medical School
Edobashi 2-174 Tsu-shi

Phone：059-231-5022

Fax：059-231-5211

日本水産学会中部支部大会

The 1st in 2001 Annual Meeting of the Chubu Branch of the Japanese Society of Fisheries Science

日時：2001年7月6日

Date：July 6, 2001

場所：津市アストプラザ・アストホール 津市羽所町700

Venue：UST TSU, 700 Hadokoro, Tsu, Mie 514-0009, Japan

講演者：日本・ミニシンポジウム4名
一般研究発表 8～10題（名）

Presentators：12～14 Japanese

参加費：無料

Open to the Public：Free

代表者：柏木正章（生物資源学部教授）

Coordinator：Masaki Kashiwagi, Prof. Faculty of Bioresources
Mie University Tsu, Mie

問い合わせ先：〒514-8507 津市上浜町1515
三重大学生物資源学部

Phone：059-231-9525

電話：059-231-9525

Fax：059-231-9523

Fax：059-231-9523

日本農芸化学会中部支部第132回例会

The 132nd Chubu Regional Meeting of the Japan Society for Bioscience, Biotechnology, and Agrochemistry

日時：2001年7月28日

Date：July 28, 2001

場所：三重大学生物資源学部 三重県津市

Venue：Faculty of Bioresources Mie University, Tsu City

講演者：日本・4名

Presentators：4 Japanese

参加費：無料

Open to the Public：Free

代表者：田中晶善（三重大学生物資源学部・教授）

Coordinator：Prof. Akiyoshi Tanaka Mie University

問い合わせ先：〒514-8507 津市上浜町1515
三重大学生物資源学部 田中晶善

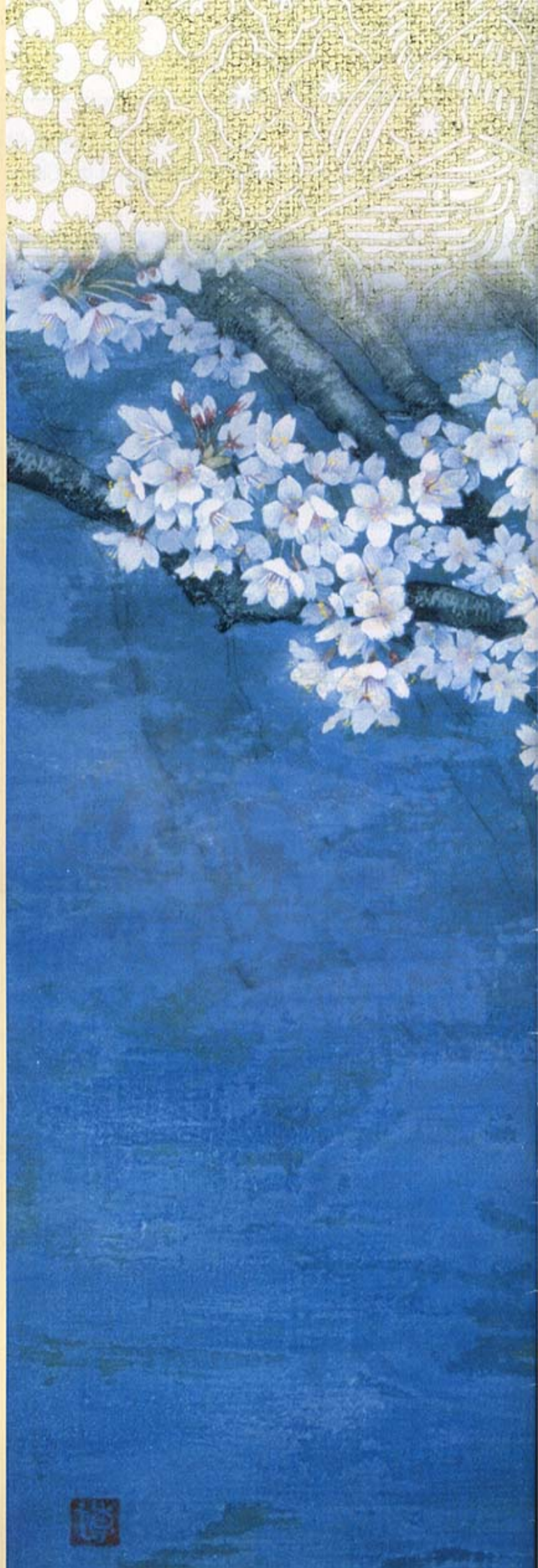
Office：Lab. of Molecular Bioinformatics Faculty of Bioresources
Mie University Tsu, Mie 514-8507

E-mail：akiyoshi@bio.mie-u.ac.jp

E-mail：akiyoshi@bio.mie-u.ac.jp

Fax：059-231-9684

Fax：059-231-9684



平成13年 4月
編集発行

三重大学広報
・ネットワーク
運営室